

令和2年10月1日

関係各社

ライチョウ観察時におけるガイドライン/ルールの明文化と
それを共有するためのハンドブック
「2020 ライチョウ観察ルールハンドブック」を発行

一般社団法人 日本アルプスガイドセンター（東京都渋谷区）では、このたび環境省と共同で、国の特別天然記念物として高山域を代表する野生生物、ライチョウを観察する際のガイドライン/ルールを初めて明文化して、全ての登山者や来訪者がライチョウに遭遇した時、最低限守るべきマナー/ルールとして共有できるようブック化した「2020 ライチョウ観察ルールハンドブック」を発行しました。



「2020 ライチョウ観察ルールハンドブック」

発行：一般社団法人日本アルプスガイドセンター
監修/編集協力：環境省
写真：雷鳥写真家 高橋広平氏 他

(内容)

- ・三浦雄一郎さんからのメッセージ
- ・環境省から発刊に寄せて
- ・ライチョウってどんなどうぶつなんだろう？
- ・ライチョウの四季
- ・ライチョウ観察ルールと登山時の注意点
- ・ライチョウを探してみよう

- ・ライチョウの写真を撮影したい
- ・ライチョウを観察しやすいところ
- ・ライチョウの未来
- ・ライチョウ保全への参加
- ・雷鳥写真家 高橋広平のライチョウ写真館
- ・山に登らなくてもライチョウに出会える

世界の寒冷地に生息するライチョウは氷河時代からの生き残りと言われていますが、日本では山岳信仰と相俟って古くから神の鳥として敬われ、日本アルプスを象徴する野生生物としても親しまれてきました。ところが地球温暖化をはじめ様々な要因によって近年その数が激減、1980年代に約3,000羽と推定されていたライチョウの生息数は、2000年代初頭には1,700羽まで減少したと言われており、その絶滅が非常に危惧されています。

私たち日本アルプスガイドセンターは2019年から事業を開始し、日本アルプスとその周辺山域の魅力を日本中の、そして世界のアウトドアファンへ向け発信して積極的に来訪を促す活動をしています。日本アルプス山域の魅力は、単にピークを目指す登山やハイキングだけではなく、季節の変化に加えエリアや動植物の多様性など、世界でも極めて希少な自然資源に恵まれていることですが、ライチョウを始めとした野生生物もその一つと言えるでしょう。

今回発行した「2020 ライチョウ観察ルールハンドブック」は、こうした希少自然資源を守る次世代の若い日本人をはじめ、今後回復が期待される海外からの観光客を含め全ての来訪者が、日本アルプスでライチョウと遭遇する機会が訪れた時、ライチョウの生態や環境を壊すことなくライチョウの魅力を充分味わうことができるよう、最低限のマナーを知り、観察のサポートをするハンドブックとなっています。

またこのルールの明文化やハンドブックの制作は、環境省令和2年度野生動物観光促進事業の一環として位置づけられ、環境省から保全との両立を図った野生生物ツアーコンテンツの作成などを補助金事業として支援する対象とされており、編集にあたっては環境省自然環境局野生生物課の全面的な監修を得て作成されました。

日本アルプスガイドセンターでは、今後回復が見込まれる海外の日本アルプスへの来訪見込み客をはじめ、日本アルプスの野生生物に関心のある多くの登山客、ハイカー、アウトドアファンを対象として、ウェブサイトを通じてこのハンドブックを告知してまいります。更にハンドブックを活用した日本アルプス山域におけるライチョウ観察ツアーを開発する、山岳ガイド関係者やツアー会社へ、積極的にブックを斡旋し、サポートしたいと考えています。

またハンドブックの内容はWebサイトでも公開しておりますので、合わせてご覧ください。

(現在は日本語のみの掲載となっています)

<https://thejapanalps.com/ptarmigan>

お問い合わせは-

◆一般社団法人 日本アルプスガイドセンター

新美 透

TEL：代表 03-5324-2385 携帯 080-2557-3809

E-Mail：toru_niimi@thejapanalps.com

◆環境省中部山岳国立公園管理事務所

所長 森川 政人

保護管理企画官 仁田 晃司

利用企画官 渡邊 元嗣

TEL：0263-94-20204

E-Mail：NCO-MATSUMOTO@env.go.jp

◆環境省 自然環境局野生生物課

係長 福田 真（内線 6670）

TEL：代表 03-3581-3351 直通 03-5521-8282

E-Mail：MAKOTO_FUKUDA@env.go.jp

以上